

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 1 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500172		
法人名	有限会社 ドリーム・アンド・ライフ		
事業所名	グループホームもやい志和		
所在地	東広島市志和町冠584番地 (電話) 082-433-3899		
自己評価作成日	平成28年12月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3492500172-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年1月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

隣接の、いきいきデイサービスとレクリエーション、行事等と一緒に行動することで、少人数で過ごすことを基本にしながらも、時には大勢で過ごす時間も設け、メリハリを持った生活を送って頂く様、支援している。環境については、木をふんだんに使った建物で暖かく、また柴犬、文鳥、金魚を飼育し、家庭的なゆったりとした雰囲気的大事にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

木の温もりと四季を感じる環境である。事業所内は、明るく開放的で、トイレ、浴室の位置など、使い勝手も良く、快適な空間である。中庭を活用しての、季節毎の食事（焼肉パーティーなど）は好評である。山間部に位置し、地域との関わりが難しい状況でもあるが、顔を合わせる努力をし、訪問者や協力者が増えている状況にある。隣接のデイサービスで行事があれば、一緒に行い、利用者同士の交流が図られている。”毎日が生き生きと生活できるようにするためには、どうしたら良いか”常に職員間で考え、個々の要望を叶える取り組みをしている。管理者は、「地域の方が、気兼ねなく立ち寄って頂くグループホームを目指したい」との想いで運営している。今後も職員間のコミュニケーションを密に行い、利用者の日々のケアの向上と働きやすい職場づくりに努めていきたいと考えている。利用者の表情から、心休まる生活ぶりが伺えた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフコーナーに貼り、職員に周知できるようにしており、また、朝礼の際に理念の確認を行っている。	職員の視覚に入る所に理念を掲げ、日々、自己点検しながら、実現に向けて取り組んでいる。事業所として、具体的な方針が確立されており、それに基づいて、事業計画・事業報告が作成されている。年度目標を設定し、日々、実践することにより、習慣化されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	行事を通じて、地域や家族との交流を図り、また、日常の買い物は利用者と共に、近くのスーパーに出かけるなど、地域の一員であるという認識を持っているようにしている。	地域の方からの要望により、地域行事（とんど祭り、そうめん流しなど）に参加する事により、交流が図られている。事業所の祭り、“もやい祭り”を開催し、近隣住民などに案内をすることにより、大勢の方が訪れている。日々の関わりから、自然な付き合いが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の文化祭で、入居者の作品等を出品するとともに、認知症の理解を得るために、職員をブースに配置し、説明を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に一度、運営推進会議を開き、利用者の家族や地域の声を聴き、行事や運営に反映できるように取り組んでいる。8月には推進会議のメンバーとグループホームとの食事会を行い、施設の雰囲気、食事の感想などの意見交換を行った。	2カ月に1回、開催している会議の内容は、①事業報告②事故報告③行事報告④協議事項などで、建設的な意見交換をしている。年1回は参加者との食事試食会及び親睦会を行い、1年間の活動報告（試写会）を行っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議で、市の担当者と情報交換を行い、連携することで疑問や問題点を提起し、協力して頂ける関係を築いている。地域包括支援センターに協力を頂き、11月から傾聴・お話ボランティアを受け入れている。	利用者の状況により、市担当者とは随時、連携を図っている。運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員の協力を頂き、傾聴・お話ボランティアの方が事業所を訪問している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>基本的には、身体拘束をしない方針だが、2人の利用者に対し、車椅子からの転落が多い為、やむを得ない事情として捉え、ご家族には説明し、了解を得ている。しかし、職員の見守りがしっかりできる時は、ソファや椅子に座り替え、拘束時間の軽減に努めている。</p>	<p>年間研修計画に基づいて、社内研修を実施している。転落や転倒の危険性が高い方には、やむを得ず、家族の了解を得て、車いす上でのベルト固定やセンサーマットを敷くなど、リスク回避に努めている。毎月、会議を開催し、ケアの見直しを行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内研修やスキルアップ研修において、虐待防止について学び、職員の意識向上に努めている。また、普段の業務の中で、乱暴な言葉遣いや介助には、その場で厳重注意し、虐待防止について、再度、指導している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>年間の職員研修計画の中で、権利擁護についての研修を行い、職員の意識向上に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用前に、重要事項説明書・契約書の説明を行い、疑問や不安に思っていることを説明の中で明らかにし、理解や納得をして頂けるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置し、利用者や家族から意見や要望を気軽に聴き出せるようにしており、出来る限りそれらに対応するよう努力し、また、遠方の方にはメールにて、意見や要望を伺っている。</p>	<p>年1回の”もやい祭り”の開催をはじめ、家族との面会が多く、意見・要望を直接聴く機会が多い。それらの意見や要望などについては、「申し送りノート」を活用し、日々の申し送り（1日2回）などで、情報が共有され、早めに対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月一回の全体会議などで、お互いの意見を提案して、反映できるように、検討・実施等を行っている。また年に2回、5事業所の合同全体会議にて、運営に関する報告や事業計画について、周知している。	申し送り（1日2回）など、管理者と職員との定期的な話し合いに加え、職員同士が話しやすい雰囲気である。不安や不満などあれば、その都度、話し合いをしている。会議時間も、業務時間内に終了するように配慮し、働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回、目標管理シートを基に、代表者は各職員と面談し、要望や不安などを聴きだし、助言するとともに、各管理者にフィードバックし、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間の職員研修や外部研修により、知識、技術の向上を図り、また、無資格者には働きながら資格が取得できるよう、勤務状況にも配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修やグループホーム協会の会議等に参加し、お互いの事業所の情報交換やネットワーク構築に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントシートで、本人、家族の要望、不安を聴きだし、安心して生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>担当者会議で、家族から本人の利用に関しての、不安や要望を伺い、できるだけそれらの不安を取り除き、よりよい関係を築くように努力している。また、普段から積極的に、要望や疑問などがないかどうか、伺うようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>アセスメントや担当者会議で、ニーズを見極め、ケアプランに反映して、よりよいサービスを展開できるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>1人ひとりのできることや、やりたいことを見定め、食事の準備や後片付けなどを行うことにより、一緒に生活しているという意識を持っていただけるようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>可能な限り、面会にきていただき、一緒に時間を過ごしたり、行事などでは家族に参加頂き、共に本人を支えているという意識を持っていただいている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>地域の方が多く、買い物や散歩に出掛けることで、顔なじみや知り合いの人に会える機会を設けている。また通夜・葬儀・法事等に出席できるように、職員が丸一日を付き添うことができるように、配慮している。</p>	<p>”地域とのつながり”を大切にしている。気候が良ければ外出したり、元同僚や知人・友人の訪問もあり、リビングや居室で過ごしている。個別対応について、家族と十分協議し、実行するなかで、利用者に表情の変化ができるようになっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が、利用者同士の共通した話題や趣味などを利用し、お互いの関係作りに励み、自然とお互いが意識し、支えあっていけるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了されたご家族とは、メールのやり取りなどで、関係が継続しており、亡くなられたご家族様の思い出話をしたり、認知症の相談に乗ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人の思いや希望をくみ取るように、関わる時間を多く持っている。収集した情報は、申し送りノートにてタイムリーに伝わるようにしている。20で記載したように、個々の希望を叶えるために、しっかりと関わりを持ち、思いをくみ取るようにしている。	利用前のアセスメントで、利用者の意向を把握し、生活歴や利用後の望まれる生活状況を想定して、個別対応でのサービスを提供している。常に、本人本位で物事を考え、日々の関わりから、一人ひとりの要望を把握するように努め、利用者の個々の希望を叶える取り組みをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントやケアプラン、家族の面会時などを利用し、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居当初は、アセスメントシートや家族から聞き、その後は、日々の介護記録や職員からの申し送り等により、状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画はアセスメント、ケアプランを基に作成し、本人、家族に納得を頂いて、署名、印鑑を頂いている。また、対象者を決め、関わり方を再検討し、改善案等を出し合い、皆で実施している。</p>	<p>常に利用者の立場に立って物事を考えている。日々の生活習慣、本人の役割（食事の下準備、洗濯物を畳むなど）を通して、生き甲斐・遣り甲斐となるプラン作成をしている。本人の意向を把握しながら、今迄の生活習慣が維持・継続できるように、具体的な介護計画を作成及び実施している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人カルテに日々の生活を記録し、特記事項等あれば記録し、その中から介護計画、ケアプランに反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族や本人のニーズをしっかりと伺い、それに合わせ、フォーマルなニーズのみならず、インフォーマルなサービスも組み合わせ、より柔軟な、より良いサービスが提供できるように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のスーパーや公民館、神社等に出掛け、地域との交流の中で、ご本人が暮らしを楽しんで頂けるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は、ご本人やご家族の意向を伺いながら、適切な診察を行ない、定期受診にて利用者の健康管理を行ない、必要に応じて専門医の往診や、訪問看護の利用に繋げて頂いている。</p>	<p>今迄の病歴などのことを踏まえ、利用時に本人・家族の希望により、かかりつけ医を決定している。受診や緊急時の連絡体制のこともあり、大半の方が事業所の協力医としている。医療との連携が不可欠なため、協力医を1カ所から2カ所に増やし、事業所として、適切な医療が受けられるように体制整備した経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	職員一人ひとりが情報を共有し、定期受診の際には、情報や気づきを伝えている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院の地域連携室と密に連絡を取ったり、お見舞いに行き、状態把握に努め、退院時に希薄な関係にならない様に努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	利用者の状況によって、家族・職員・医療関係との連携を図り、今後の方針を決めている。	看取りの経験から、希望があれば看取りは行う方針である。必要時に、「終末期についての意思確認書」により、意向を確認している。重度化やターミナルケアに向かう時期となれば、その都度、かかりつけ医や家族との話し合いを重ねて対応している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	緊急時の対応として職員研修を行い、実践力を身に付ける様に努めている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全ての職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年に2回、消防署と連携し、夜間を想定した訓練等も取り入れ、行っている。隣接する消防団とも契約を交わし、災害時には通報システムで自動に連絡がなされ、協力体制を築いている。	隣接の消防団と契約を交わし、協力体制を築いている。消防署の協力を得て、年2回、消防訓練を実施し、防災意識を高めている。	①日頃から地域住民との連携が不可欠なため、運営推進会議などを通して、近隣住民との協力体制づくり。②災害に備えて、備蓄品（食糧、飲料水、トイレ、寒さをしのげる物品など）の準備。③定期的に備蓄食などを食することで、防災意識を高める等の取り組みを望みます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「一人ひとりの人格・尊厳を大切にす」と理念にもあるように、配慮に欠けるような言葉遣いや対応はしないよう、教育・指導している。	言葉遣いは日常の事でもあり、特に気をつけて対応している。社内研修を行い、接遇・言葉掛けの教育を行っている。本人の自尊心を傷つけないように、相手の立場で考え、その人に合った言葉掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話や相談等の関わりの中で、本人の思いをくみ取り、ケアプランや日頃の暮らしの中で、実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全てが最優先と言うのは難しいが、一人ひとりの気持ちを大切に、出来るだけ一日一日が充実した日になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に美容院が来られ、散髪等を願っている。また起床時には、洗顔や整容を心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒に食事の準備をしたり、後片付けも行っている。また行事の際の食事はリクエストに応え、一緒に作り、一緒に食べる等、楽しい時間となるように心がけている。嗜好調査に基づき、食欲がない時には、ご本人が好むものを提供するなど、臨機応変に対応している。	行事食は、利用者のリクエスト（にぎり寿司、焼肉、オードブル食、ピザなど）に応えるようにしている。利用者と職員と一緒に食事の準備をしたり、後片付けをしている。差し入れを受けた食材や、事務所で収穫した野菜を献立に活かしている。食事中も会話が弾み、美味しく食することで、健康維持に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量、水分量のチェックをし、摂取量の確認を行っている。また、個人の嗜好に合わせて、コーヒーや紅茶などを提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔内の清潔維持と誤嚥性肺炎の予防の為、毎食後、必ず口腔ケアを行ない、また自歯がある方は、協力医院の歯科にて定期受診をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>オムツを安易に使用せず、トイレ誘導し、排尿・排泄を促している。同時に、排泄記録表に記録することで、排泄パターンを把握するよう努めている。</p>	<p>トイレは4カ所に有り、その内3カ所は車いす利用の方にも、十分なスペースが確保されている。トイレに座ることを基本としたケアに取り組んでいる。日中は、布パンツまたはリハビリパンツを使用している。適時のトイレ誘導により、紙オムツの使用量を減らす取り組みをしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>レクリエーションでの体操や、食事・水分を十分摂り、基本的な事をしっかり行い、便秘にならない様に心掛けている</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>最近は、午前中の中の入浴で、週2回となっているが、本人の希望によっては、入浴日以外に入浴したり、日程を変更するなど、出来る範囲で、希望に沿うようにしている。</p>	<p>福祉機器（シャワーキャリー・天井走行式リフト）を完備している。時間帯は午前（10:00～12:00）、少人数（3人）での入浴とし、最低、週2回は入浴を行っている。季節に応じて、ゆず湯・バラ湯・しょうぶ湯をしている。本人に満足して頂くことを心掛け、ゆっくりと入浴ができるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動量を増やし、夜間はしっかり眠って頂くよう努めている。また、食後は横になり、休息を取って頂いたり、寝る前にはホットミルクを飲んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方用紙をカルテに保管し、用法、用量について、皆が把握できるように努めている。また、変更、追加があった場合は、口頭及び申し送りノート等にも記載し、職員への周知徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションや毎月の行事などに、喜びや楽しみを持って頂けるように支援している。また、食事の準備や片づけなども、やりがいや生きがいを感じて頂けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者と一緒に、近くのスーパーには度々出掛けている。遠方にも、食事やドライブ、紅葉、花見等、様々な所に出掛けている。また20でも記載したように、本人、家族の希望によっては、職員が付き添うことで、行きにくい場所でも、行くよう支援している。	季節を感じて頂く取り組みとして、年間行事を立案し、定期的な外出支援をしている。気候が良い時は、その都度、外出し、近隣のスーパーマーケットや公園などに出掛けている。今春は、家族合同の花見の企画が計画されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は、自己管理されている方もおられたが、現在の入居者は重度の認知症の方が多く、施設で管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	施設の電話を使用し、いつでも連絡をとれるように支援している。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	木の温もりを感じて頂けるような住居、家具を提供し、随所にソファや談話スペースを設置することで、くつろぎの空間を用意している。また、窓や天窓から自然光を取り入れ、明るく、居心地良く過ごして頂けるように配慮している。犬、文鳥、金魚を飼うことで、入居者、職員共に癒されている。	木の温もりと四季を感じる環境である。犬、文鳥、金魚を飼うことで、利用者、職員共に癒されている。一人ひとりが心休まり快適に生活していて、職員は、穏やかな対応に心掛けて、対応している。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	仲の良い利用者同士の席を、隣同士にしたり、ソファを数か所に設置しているので、数人と座ったり、別の場所に一人で座ったり出来る様に、思い々に過ごして頂けるように工夫している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	クローゼット、洗面台は備付だが、ベッド、タンス、テレビ等は使い慣れたものを持参して頂き、本人の好みや自宅の環境に近いものになるよう配慮している。	エアコン、クローゼット、洗面台が用意されている。利用前、家族に必要な物品表を手渡し、物品などの準備をお願いしている。本人の個性に合わせて、寝具や家具、生活必需品が自由に持ち込まれている。本人の意向や家族と相談しながら、居心地良く生活できるような環境づくりに努めている。	
55		<p>○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	ケアの目標として、自立支援が実践できるように声掛け、介助を行なっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもやい志和

作成日 平成29年3月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年に2回火災訓練は行っているが、その他の災害に対する訓練が行われていない。	災害（水害、地震など）に対する訓練の実施。 備蓄品（食料、飲料水、毛布等）の準備をする。	次回の防災訓練では、準備した備蓄品を使い、実際に屋外で食事の準備をし、防災に対する意識を高める。	半年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。